人と人、組織をつなぎ、あなたの暮らしを支えます

愛さぽーと

I support

2026
11
寒河江市
社会福祉協議会
広報 vol.129

特集

見送り、生きる

山田涼太 寒河江青年会議所 理事長



▲夏休みボランティア体験における点訳体験

特集

見送り、生きる



山田涼太 寒河江青年会議所 理事長

「人口減少を止めるっていうのも難しいんで、逆に言ったら、もう、呼び込むぐらいの気持ちで地域をおこしていかなきゃいけない」そう力を込めて話すのは、公益社団法人寒河江青年会議所（以下：JC）で理事長を務める山田涼太さん。

人口減少という地域の課題に向き合い、JCでは、若い世代が地域の将来について考える機会をつくっている。選挙の際には若者の政治参画を促す取り組みを。子どもたちには、地域の自然や伝統に触れる体験を届ける。

自分たちでご飯をつくり、テントを張る。時には川下りもする。いつも触れるタブレット画面の中ではなく、自分の身体で地域を知る。「自分たちが住んでいるところは、こんなに素晴らしいところなんだ」そう思える経験をつくることが、郷土愛を育てるJCの活動だという。

イベント終了後、「来年も参加したい！」「とても楽しかった」と、率直に感想をぶつけてくれる子どもたち。保護者からも「青年会議所の活動、応援しています」と声をかけられることが、次の活動のエネルギーになっている。

今年度、理事長として組織の先頭に立っている。最初から、強い思いがあってこの場にいたのではない。そこにいる自分と過去の自分。行ったりきたりしながら、今がある。

山田 涼太（やまだ・りょうた）
公益社団法人寒河江青年会議所　理事長

寒河江市出身。高校卒業後、家業とは異なる解体業の道へ。６年ほど働いたのち、24歳で葬祭業の世界に入る。父の病気をきっかけに、令和６年４月、社長に就任。30歳でJCに入会、役職を歴任し、現在は理事長を務める。

継ぎたくなかった家業

葬祭業を営む家に生まれながら、最初から家業を継ぐつもりだったわけではない。特に就きたい仕事があったわけではない。

ただ、継ぎたくなかった。

幼いころから「葬儀屋の息子」と言われることがあった。「人の死でお金儲けをしているんじゃないか」そんな言葉に、何も言い返せず、うつむく日もあった。

市内のお寺にある幼稚園での生活。両親が忙しいときは、家業をよく理解していた園長先生がつきっきりで手をつないでくれた記憶がよみがえる。

学生時代は野球に打ち込む。厳しい上下関係の中で、礼儀や目上の人への接し方を身体で覚えた。一方で、なかなか勉強には身が入らなかった。見かねた親戚の僧侶に呼び出され、山形市内のお寺で勉強を見てもらう日々。木札の回収や本堂の雑巾がけも手伝った。あるとき、その寺で葬儀があった。「葬儀屋さんの指示に従え」と言われるまま、参列者の履き物を下足箱に並べた。「実は、それが今の会社だったんですよ」。入社してから気づいたことを、笑い話のように教えてくれた。

高校卒業時には、東京の葬儀会社での修行の話を断り、同級生の解体業の会社に就職。重機が好きだったこともあって、さまざまな運転免許を取得した。建物を相手にする仕事は、性に合っていた。いつしか、「一生、骨を埋めたい」と思うほどに好きな仕事になった。

それでも、20代前半で、家業へ戻ることになる。

「いろいろ考えたけど、戻るしかないなっていう感じで」



市民後見人研修の参加者と

待っていたのは、それまでとはまったく違う仕事。建物や物と向き合っていた解体業。一方、葬儀の仕事で向き合うのは、悲しみの中にいる人たち。声のかけ方もわからない。何をどう話せばいいのかもわからない。

「こんな若造に、葬儀を任せられない」

そんな視線が多方面から刺さってくるように感じていたという。心無い言葉に、何度も気持ちが折れかけた。

「この仕事、合ってないんじゃないか」

それでも、仕事は続く。一つの葬儀が終われば、また次の家族が待っている。

その人が、どんな人だったのか

数百人という単位で、一家族一家族に向き合ってきた。本人を知らなくても、その人がどんな人生を送ってきたのか、家族がどんな人なのかは、見送る中で少しずつ見えてくる。優しかった人。家族を思っていた人中には、傲慢でわがままだったという人もいる。それでも、残してもらったものは大きい。

「この人、すごいな」

見送るたびに、「人としての使命を果たされたんだな」と思う。お孫さんたちからのお別れの言葉で溢れる葬儀もある。

「私の最期もこんな風に見送ってもらえるだろうか」

そう、頭をよぎる。

一方で、親族や地域とのつながりが薄くなった人。兄弟がおらず、両親も亡くなり、親族だけでは支えることが難しい人。

そうした人の最期に立ち会うとき、なんともいえない感じになることがある。誰からも言葉をかけられない。その人がどんな人だったのかもわからない。それでも、「それなりの事情があったんだろうな」と、年を重ねられたお顔を見つめ、手を合わせる。

「お疲れさまでした」

物音のない部屋、動かない時間。その真ん中に、ひとりで立つ。葬儀の現場を離れた彼には、もう一つの顔がある。

「今回だけな」

「実は最初は、ほとんどJC活動に参加していなかったんです」そう言って、ばつが悪そうに笑う。父の姿を見てきたからか、「何も所属しないで、仕事だけ熱心にしてればいいや」と思っていた。



30歳のとき、同級生と一緒に入会したJC活動。顔を出すようになったきっかけは、それから4～5年たったころ。その同級生から、「頼む！来てくれ」という誘いだった。

「じゃあ、今回だけな」

そう思って行ったはずが、副委員長を頼まれた。そして、次は委員長だぞ、と。

「いやいや、そんなの無理――」

必死の声は届かない。その後も別の役を担いながら、気がつけば理事長をさせていただいている。それが今は、「入ってみないとわからないものがあるんだなって」心から思う。


被災地でのボランティア活動

JCで学んだのは、「修練、奉仕、友情」。苦手なことに挑戦すること。地域のために動くこと。同じ目標に向かって活動する仲間と出会うこと。

実は、人前で話すことが今でも「苦手」だという。

「緊張しかないんです、本当に…」自分の気持ちや考えを言葉にするのも苦手だ。

それでも、何度も何度も人前に立ってきた。仲間からすると、「お前への修練だ、って言われて」。苦手なことに、何度も挑戦して慣れていくというが、いまだに緊張はなくならない。

「だけど、前に比べて、ほんの少しだけ、緊張しなくなったかもしれない」と、左手の親指と人差し指で、紙がつかめるくらいの隙間をつくった。

「かわいそう」と、思われていた

人生は、思いどおりにはいかない。父の病気により、突然、社長のバトンを引き継ぐことになった。心の準備もままならず、戸惑いや苦難が絶えない日々。

そんな中でも社長になってから、山田さんが変えたものの一つが、働き方だった。

深夜1時、2時に呼び出され、亡くなった人を迎えに行く。自宅などにお連れして、打ち合わせが終わるのは朝方。そのまま出社して、日中の仕事をする。

「この仕事を続けることができるのは、やはり家族のおかげなんですよね」

昔から続いてきた働き方を見直し、日中と夜間の業務を分ける仕組みをつくった。思い返すと、幼少時、周りの友達と比べると、親と一緒に過ごす時間が少ないのが当たり前だった。けれど、周りからは「かわいそう」と思われていたんじゃないか、と今は思う。

「そういう思いは、なるべくなくしたいなって」

子どものいるスタッフからは、「授業参観や遠足に、ちゃんとうなっていくことを見据えている。

JCメンバーでの企画の過程では、「激しく意見がぶつかることばかり」、と笑う。自分の中で思い描いていたことに、想像していなかった角度からの意見が飛んでくる。どう折り合いをつけているのかを訪ねると、「すべては、成果が見込めるか」なんだそう。説明に共感してもらい、納得してもらう。そして、仲間の意見にも耳を傾け、自分の気づけなかったことに気づく。

見えてきた、つながり

表に立って企画し、動かす場もあれば、もっと静かに、人と人がつながっていく場面もある。

身寄りが少ない人や、判断能力が十分でなくなった人の生活を、家族に代わって支える「市民後見人」。弁護士や専門職のほかに、市民が研修を受け、その担い手になる制度だ。社会福祉協議会（以下：社協）より依頼があった市民後見人研修では、「人生のエンディングをどう考えるか」という切り口で話をした。一般葬と家族葬のメリット・デメリットを伝えたときのこと。ある参加者から、こう聞かれた。

「息子たちに迷惑をかけたくないので、家族葬にしたいと思っているんです。どう思いますか」。

誰にどう見送られたいか。それもまた、「エンディング」の選び方だと感じた。

社協との縁は、違う場面でもあった。JCの立場から、大雨水害による被災地支援のボランティア活動にも参加した。集まったのは、初めて顔を合わせる有志のメンバーたち。スコップを握り、泥をかき、汗をかく。移動中の会話で、思いがけず、自社がお世話になっている方が多く参加していたことを知る。別の企業から参加している人とも出会い、奉仕活動への刺激を受けた。積極的に足を運ぶことで、こうしたつながりが地域にあることを知った。そこでの経験から、「自分も誰かの力になれるのではないか」と思うようになった。それから続けて数回、被災地へ足を運んだ。そして、JC活動だけではなく、会社として寒河江市災害ボランティアセンターの協力企業として登録することも決めた。



お見送りを重ねるたびに

「日頃から、人のお役に立てるような人生をおくりたい」

事務所の壁には、「初心忘るべからず　社長」と書かれた薄黄色い色紙。先代の社長の時代から飾ってあるという。「うちの営業職は、お酒を飲まない人が多いんですよ」。夜の電話当番のためではなく、偶然にもそういうメンバーが集まったのだそう。スタッフとの談笑に、心地よい距離をみる。

葬儀ホールを背に、短い坂を下る。

バックミラーに、頭を下げた彼の姿が遠くなっていく。

道路に出ると、連なる山並みが右手に見えた。


市民後見人セミナーにて

募集

事前登録　災害ボランティアセンター運営協力者（企業・個人）

災害発生時に設置される「災害ボランティアセンター」の円滑な運営のため、ご協力いただける企業・個人の方を募集しています。

- **募集対象：** 市内および近隣の企業・団体・個人
- **主な協力内容：**
  - ・【個人】受付・電話対応・PC入力・資機材管理・送迎など
  - ・【企業】資機材・車両の提供、専門スキルの提供、人員派遣など
- **活動のタイミング：** 災害発生によるセンター設置時（平時の事前研修あり）
- **条件：**18歳以上で事前に協力者登録を行っていただける方

お申し込み・お問い合わせ
市民福祉課　地域福祉係　83-3220
LINE登録QR



災害時のボランティアについて連携を考える

寒河江市災害ボランティアネットワーク連絡会を開催

9月10日、市内の災害支援団体や行政、専門機関が顔を合わせ、「寒河江市災害ボランティアネットワーク連絡会」を開催しました。

講師の一人、DRT JAPAN YAMAGATA 代表の我妻清和さんの話で印象に残ったのは、「支援したい気持ちが強いときほど、気をつけていることがある」という言葉でした。手を差し伸べすぎると、本来そこに住む人たちが持っている「自分たちで乗り越えていく力」を、知らないうちに奪ってしまうことがある―現場に立ち続けてきたからこそ語れる実感でした。

NPOグラウンドワーク寒河江からも、東日本大震災の際に支援へ入った当時の経験が語られました。

専門家、行政、市民活動、それぞれの立場から情報を持ち寄る中で、実際に災害が起きたときどう動くのか、そのイメージが少しずつ具体的になっていく―そんな時間になりました。

夏休みボランティア体験

２５施設・団体に
延べ１３６名が参加

地域交流の場での気づき

はあとカフェ

県立高等学校３年生

今回のボランティア活動を通して、人と人との関わりの大切さを強く感じた。普段はあまり関わることのない世代の方々の考え方や経験に触れることができ、とても新鮮であった。自分が話を聞くことで相手が嬉しそうにしてくれる様子から、会話そのものが相手の心の支えになることもあるのだと実感した



高齢者福祉施設での学び

ソーレホーム寒河江

市内中学校３年

私の母も介護関連の仕事で施設に勤めているので、このような仕事は軽くですが知っていましたが、今日は入居の方と触れ合ってみて、通所の方の介護にプラスして、24時間のトイレの介助や入居者さんへの朝の声がけなどの仕事も毎日あるということがわかり、勉強になりました

放課後児童クラブでの体験

南部なかよしクラブ

市内中学校１年生

学童でたくさんお世話になったので、少しでも先生のお手伝いができればと思い参加しました。子どもと遊んだり、勉強を教えたり、掃除や電話対応などなど大変な仕事だなと思いました。先生は『大変だけど、みんなめんこいから楽しい仕事だよ』と話してくれました。自分が興味があり、好きな仕事に出会えるといいなと思いました

ボランティア受け入れ協力　ありがとうございます。

児童・こども関係施設
- 寒河江市総合子どもセンターゆめはーと
- やよい保育園
- さがえさくらんぼ子供園
- しばはしさくらんぼ子供園

放課後児童クラブ
- 第一わんぱくクラブ
- 第二わんぱくクラブ
- 第三わんぱくクラブ
- 第四わんぱくクラブ
- 第五わんぱくクラブ
- 第六わんぱくクラブ
- 第七わんぱくクラブ
- なかよしクラブ
- ねっこクラブ
- やまびこクラブ
- さくらっこクラブ

ボランティア団体
- さがえ花と緑のまちづくりの会
- 傾聴ボランティアはあとの会

高齢者福祉施設
- 介護付有料老人ホーム　ソーレ寒河江
- 陵東デイサービスセンター
- サービス付き高齢者向け住宅ソーレホーム寒河江
- 特別養護老人ホーム長生園
- デイサービスなごみ
- デイサービス笑和感
- 特別養護老人ホーム　醍醐

その他
- 寒河江市立病院
- NPO法人らっふる
- NPO法人ほけっとぴーすの森
- POCCOさがえ



表紙の写真



ボランティアがつないだ、次の一歩

この夏、施設や団体でのボランティア体験に参加した生徒たち。活動を終えたあと、社協の公式ＬＩＮＥに「他にもボランティアをしてみたい」というメッセージが何件も届きました。

寄せられた声をもとに、社協では４つの施設への橋渡しを行いました。ひと夏の体験が、次の一歩につながる――そんな嬉しい広がりが生まれています。

協力いただいた施設
- ぽけっとぴーすの森
- 特別養護老人ホームさくら
- あおぞら保育園
- ゆりかご子ども園

ハートフルセンターで39名が6団体のボランティア活動を体験

参加した生徒からの感想

①感想、②難しかったこと



点字への気づき

市外県立高等学校３年生

ブース：点訳

①「点字の書きと読みで逆になる事に驚きました。点字を書くことは今までにない新鮮な感覚で楽しかったです。日常の当たり前になればいいなと思ったり、学びが多くありました」②「文字の空ける場所が難しかったです。国語の文節と似たような感覚があり、改めて点字は工夫がすごいと感じました」



傾聴の難しさと発見

市外中学校３年生

ブース：音訳・傾聴

①「特に傾聴ボランティアの体験で、話を聴いてもらって反復することにどんな意味があるのかを知る事ができました」②「音訳では、話すスピードや間の空け方が難しくて大変でした。傾聴では話を聴きながらどのような態度が一番いいかわからず難しかったです」

参画団体　音和の会 / 折紙ボランティアさくらの会 / 要約筆記サークルたんぽぽ / 傾聴ボランティアはあとの会 / 点訳の会さくら / バルーン団

QUOカード500円分を３名様にプレゼント

締切　令和８年11月27日(金)

広報誌「愛さぽーと129号」の感想をお待ちしております。

1．名前　2．年齢　3．住所
4．連絡先（電話または e-mail）
5．広報誌を読んでの感想・ご意見

二次元コードから読み取りフォームに回答いただくか、またはハガキでも受け付けております。

福祉教育プログラムが活用されました

「陵南中学校」×「やまがた絆の架け橋ネットワーク」　早坂 信一 氏

　当会が提案する福祉教育プログラムの一環として、陵南中学校にて「第１回 防災学習会」が開催されました。「やまがた絆の架け橋ネットワーク」代表の早坂信一氏による講義とゲームに、生徒会を中心とした３年生が参加。

　前半の講義では、「山形は災害が少ない」というイメージに対し、寒河江市が全国的にも地震危険度の上位に位置している現状が説明されました。また、市内の水害写真を使ったクイズや、「水に関わる地名がつくのは過去に水害に悩まされた場所である」といった歴史・由来の紹介もあり、県内は水害リスクは高いという現実を再認識する機会となりました。

　後半は、「クロスロード（防災カードゲーム）」を実施しました。このゲームは、災害時における究極の選択に対して、その判断理由を意見交換して防災意識を高めるものです。「答えがない」「相手の意見を否定しない」というルールの下、生徒たちは自身の考えを自由かつ積極的に発言していました。中学生ならではの視点によるしっかりとした意見が多く、立ち会った先生方からも「なるほど」と感嘆の声が上がるなど、深い学びの場となりました。



参加した生徒からは、

- 思っていた以上に楽しかった
- あっという間に時間が過ぎた
- 人によって考え方が違うことが分かり、とても勉強になった

といった感想が寄せられました。

　当協議会では、今後も地域や学校と連携しながら、防災意識を高める福祉教育の推進に努めてまいります。

募集　「ふれあい給食」のボランティア（配達・調理）募集

　一人暮らし高齢者等に昼食をお届けし、安否確認をする「ふれあい給食」のボランティアを募集しています。

募集ボランティア

- **調理ボランティア**
  献立をもとに調理を行うボランティアです
- **配達ボランティア**
  弁当を２人１組で個人宅へ配達するボランティアです

問い合わせ
市民福祉課生活支援係　**TEL：83-3220**



募集　令和８年度歳末たすけあい「地域福祉活動助成」

年末年始において地域福祉の推進を目的に実施する活動に助成を行います。

対象団体　市内に活動拠点を置く非営利の住民活動団体
（ボランティア団体、当事者団体、ＮＰＯ法人等）

活動内容例　**孤立防止・安否確認 ／ 生活支援**
子ども多世代支援 ／ 地域共生

対象外の活動　本年度に赤い羽根共同募金の助成（一般募金等）を受けている活動。
特定の会員や施設の利用者のみを対象とした活動。
町内会等の役員による慰労会や親睦を目的とした活動。
施設利用者や職員だけで完結する行事　など

助成金額　**１団体あたり上限30,000円**
※申請内容（参加人数や事業規模）を審査し、決定する。なお、申請額満額の助成を確約するものではありません。

提出締切　**令和 8 年11月25日(水)**

そ の 他　詳細はお問合せください。
（担当：市民福祉課生活支援係）**TEL： 83-3220**

寒河江市地域福祉活動計画に基づき

地域づくりワークショップ　8地区社協で開催！

「地区の生活課題」と「その解決に向けた具体的な取組み」を出し合い、地区ごとの実情に応じたアイデアが生まれました。

全体を通した主な課題と傾向

つながりの希薄化と防災

　コロナ禍以降のつながり不足に加え、「個別声かけをしても避難しない人がいる」など防災面の危機感が共通の課題として挙がった。

担い手不足と組織の見直し

　役員のなり手不足や負担感に加え、町会長の1年交代による引き継ぎの難しさや、これまでの規約・役職にしばられた体制を見直そうとする動きが見られた。

情報の共有とＰＲ不足

　地区社協の活動が地域に十分に知られていないことや、要支援者の情報の把握が難しい構造的な課題が浮き彫りになりました。

地区名	（１）主な生活課題	（２）具体的な取組み
寒河江地区	地域のつながりの復活が急務（若者は「軽いつながり」を求め、役員不足）。オープンに集まれる場の不足。	「人とのつながり」の充実に取り組む。南部地区「COCO&」を手本に、居場所づくりを進めたい。
南部地区	地区社協の活動の認知度が低い（ＰＲ不足）。三者懇談会の実施状況の把握や他団体との接点が少ない。	地域見守りネットワーク活動の充実を図る。民生委員定例会の協力を得て三者懇談会を丁寧に実施する。
西根地区	町会長が１年交代が多く、防災等の引き継ぎやケアが滞りやすい。コロナ禍以降、つながりが希薄化。	一人暮らし高齢者への友愛運動（近所同士の声かけ）、情報交換会の実施。世帯調査の実施や、夏祭り等のイベントを通じたつながりづくり。
柴橋地区	活動のＰＲが難しく地域での認知度が課題。高齢者の個別情報の提供許可の得方や扱いの難しさ。	あいさつ・声かけ運動を推進する。地区ごとの見守りネットワーク４者懇談会の強化を行う。
高松地区	役員のなり手不足、負担感の受け止め方に個人差がある。現行の規約や役員体制の見直しが急務。	役職にしばられない役員体制の構築を検討する。社協だよりの工夫や、子ども会・消防団等の既存のつながりの活用。
醍醐地区	若年層も含めた「人のつながり」が課題（地域イベントの減少が背景）。	小地域の活動を支援する。「社協が地域の集まりの場や新たな担い手を支援していく存在になる」との認識で検討する。
白岩地区	町内会ごとの取組みの温度差があり平準化が課題。防災面（避難困難者への支援等）や立場が弱い人への対応。	地区社協総会で見守り事業の説明をし、声かけを広げる。進捗を民生委員定例会で確認し、未参加者も含めて巻き込んでいく。
三泉地区	各町会で状況が異なるが、他の町会の状況を把握する機会がなかった。	地区全体として町会ごとの見守り状況について、役員研修後に情報交換を実施する。



話し合われた内容は、それぞれの地区社協の今後の活動に活かしていきます。



ご紹介

「ボランティア派遣」を活用してみませんか？

「町内会の集まりに音楽を呼びたい」「施設の行事に彩りを添えたい」――ご要望に合わせて、ボランティアをご紹介いたします。

できますポケット（ボランティアセンター）には、地域のイベントや集まりを盛り上げる特技・活動を行う団体が多数登録されています。

● こんな実績があります

町内会の行事、お祭り
高齢者施設･障がい者施設でのレクリエーション
学童保育など子ども関係施設での交流活動

町内会や老人クラブなどの地域活動はもちろん、「施設の行事でも頼めるの？」という職員の方からのお問い合わせもお気軽にどうぞ。

● 派遣可能な活動の例

読み聞かせ・昔語り
子ども向けのおはなし会や、地域の昔話を届ける和やかなひととき

落　語
笑いで元気を届ける本格的な高座や演芸

音楽・パフォーマンス
ギターや三味線の演奏､みんなで歌う音楽会など

このほかにも、さまざまな特技を持った団体が登録しています。「こんなことはできる？」など、お気軽にご相談ください。

● ご利用の手順・流れ

1 お問い合わせ
気になる団体や実施したい内容について、ボランティアセンターへ連絡。

2 日時の調整依頼
開催希望日時（候補日をいくつかご用意ください）をお伝えください。センターから各団体へ空き状況を確認。

3 日程確定の連絡
団体との調整後、センターから依頼者様へご連絡します。

4 直接お打ち合わせ
ボランティア団体の連絡先をお伝えします。当日の詳細（プログラム・準備物など）や謝礼・交通費等は、団体と直接お話し合いをお願いいたします。

ボランティア派遣　登録団体紹介

読み聞かせ・昔語り・落語

－いっちゃん会：
絵本・紙芝居の読み聞かせ、パネルシアターなど
－おはなし会　のんたん：
絵本・紙芝居の読み聞かせ、遊び歌など
－寒河江昔語りの会：地域の昔話・わらべ唄の語り部
－ぎぼうし落語の会：出前寄席で笑いをお届け

音楽・パフォーマンス

－アリオン：ギター演奏、歌声喫茶
－アンダルーサ：ギター演奏
－童謡をうたうさくらの会：童謡中心の合唱・コンサート
－フリーのサウンド高橋：演歌中心の音楽鑑賞･カラオケ
－寒河江なつメロ愛好会：昭和なつメロの披露



公式LINE
できますポケット
からも問い合わせ
ください

連絡先　できますポケット
寒河江市ボランティアセンター
TEL：0237-83-3220

ふれあい・傾聴・癒し

－傾聴ボランティア　はあとの会：
出前カフェ・傾聴活動
－法泉寺：ドッグセラピー
－Aroma ola：香りの効果などの講話、アロマスプレーなどのクラフト

手話・点字

－手話サークル　かがやき：手話の体験
－点訳の会さくら：点字を使った栞・カード作り

ものづくり・工作

－折紙ボランティア　さくらの会：折紙指導
－バルーン団：バルーン制作

観光案内

－さくらんぼの里
観光ボランティアガイドの会：市内の観光案内

野外活動・子ども向け体験

－ボーイスカウト山形県連盟寒河江第１団：
キャンプ・野外活動・クラフト
－ガールスカウト山形県第９団：
野外活動・レクリエーション

環境・まちづくり

－さがえ花と緑のまちづくりの会：
花苗の植栽･除草活動

訪問介護事業所による「介護講座」を開催しました

先日、ふれあいサロン柴橋にて、本会の訪問介護事業所による「介護のコツを学ぶ講座」を開催しました。

講座では、技術だけでなく「すべての世話をするのではなく、ご本人ができることはご自身で行ってもらう」という意識が、介護される側にとっても大切であることをお伝えしました。これは、将来自分が介護を受ける立場になった際にも役立つ視点です。

具体的には、立ち上がる際に「頭を下げると立ち上がりやすくなる」といった、介護される側も知ることでスムーズに行える動作のポイントを解説したほか、移乗や衣服の着脱のコツについても実践的なアドバイスを行いました。


移乗の方法をレクチャーしています

参加者からは「昔、自己流で介護していた頃を思い出して涙が出た。当時は大変な苦労をしたので、もっと早く知っておきたかった」といった声も聞かれました。

今後も地域の皆さまの安心な暮らしに役立つ講座をお届けしてまいります。

地域包括支援センターからのお知らせ



ご家庭の冷蔵庫に、地域の安心を貼ってみませんか？

寒河江市内で一人暮らしをしている80代の男性。食事や薬の管理をご自身でしっかり行うなど、自立した生活を送られています。しかし、市外で暮らす息子さんは、遠く離れた親の「万が一」をいつも気にかける日々でした。

そんな中、東北で大きな地震が発生。「一人で大丈夫だろうか」と心配した息子さんと男性が話し合っていたところへ、地域包括支援センターの職員が訪問に訪れました。

そこでご紹介したのが、寒河江市の黄色いファイルに入った「あんしんカード」です。これは氏名や持病、かかりつけ医だけでなく、日頃から近所で見守ってくれている「隣組」や町会長、民生委員などの連絡先を一覧で記入しておくためのカードです。「これなら安心だ」と納得された男性は、すぐに記入し、「冷蔵庫のドア」へ貼ることにしました。日頃から隣組のお隣さんや地域福祉推進員さんが「変わりないか～？」と気にかけて声をかけてくれる日常に加えて、いざという時の備えが整った瞬間でした。

備えが活きたのは、一か月後のことです。男性が急なめまいに襲われ、ご自身で119番通報。駆けつけた救急隊員が冷蔵庫のカードを真っ先に確認し、そこに書かれた連絡先から市外の息子さんへ迅速に連絡が入りました。おかげで息子さんは迷わず搬送先の病院へ直行することができたのです。

「あの時書いておいて､本当に助かった。」
安堵の表情で振り返る息子さんと、「カードのおかげで命拾いした」と話す男性。

「地域見守りネットワーク事業」は、隣組や地域福祉推進員、町会長の日常の声がけ、民生委員さんの訪問活動､そして関係機関が連携することで成り立っています。「あんしんカード」は、その温かいネットワークを緊急時に素早く動かす大切なカードです。

「あんしんカード」をご存知ですか?

氏名・かかりつけ医・緊急連絡先などを記入し、冷蔵庫に貼っておく備えのカードです。万が一の際、駆けつけた救急隊員等が確認して迅速な連絡・手配につなげます。

【お問い合わせ先】
寒河江市地域包括支援センター
（ハートフルセンター３階）TEL：85-0896



「地域見守りネットワーク事業」とは?

日常の声がけ、見守りで異変を早期に発見し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制をつくる事業です。

■ 地域を支える「４つの核」

地区社協：
地域福祉の拠点として、見守り活動の基盤を支えます。

町 会 長：
地域(町内会)のまとめ役として、見守り体制をバックアップします。

地域福祉推進員：
約50世帯に1人配置され､日常の声がけや見守りを担います。

民生委員・児童委員：
異変の把握や専門機関への橋渡しを行います。

■ 主な働き

日常の声がけ：
隣組とも協力し､「変わりないか～？」とあたたかく気遣います。

迅速な連携：
異変に気づいた際は関係機関へ速やかに連絡し、地域包括支援センターなどの支援につなげます。

地域のみなさんに知ってほしい

「生活支援コーディネーター」のこと

みなさんは「生活支援コーディネーター」という役割をご存じでしょうか。「元気に年を重ねていただきたい」。高齢者の方がいつまでも元気で、住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域にあるさまざまな活動を見つけたり、つなげたりする役割を担っています。（寒河江市より受託）

地域のサロンや老人クラブにおじゃましています

現在、地域のサロンや老人クラブなど、皆さんが集まる場に訪問し、顔を覚えていただくところから始めています。まずは地域のことを知り、皆さんとの顔の見える関係をつくることが、これからの活動の第一歩だと考えています。

教えてください！地域のこと

活動を進めていく中で、皆さんにぜひ教えていただきたいことがあります。

地域の活動…サロン、体操の会、趣味の集まりなど、普段行われている取り組み
地域の人…こんなことが得意、こんな活動をしている、という方の情報
地域の場所…気軽に集まれる場所、ちょっとした立ち寄りスポットなど

「こんな小さなことでいいの？」ということでも大歓迎です。皆さんの何気ない一言が、「元気の種」を見つけるヒントになり、地域の支え合いを広げる力になります。

サロンや集まりでお会いした際は、ぜひお気軽にお声がけください。皆さんがいつまでも元気でいられる地域づくりのために、地域のことを、もっともっと教えてください。

八鍬老人クラブにおじゃましました！



なんだかとっても元気なみなさん。この日は温海温泉への旅行の話題で持ち切りです。退勤後、スーパーで買い物をしていたら、会員さんとばったり。あけびのおいしい食べ方（細かく切って肉と紫蘇で炒めるんだそう）を教えてくれましたよ。

生活支援コーディネーター
早坂 由起



寒河江生まれ、寒河江育ち。方言で話すことが得意です。
４月より事務職から異動になりました。みなさんいろいろ教えてください。

令和９年度「赤い羽根共同募金配分助成事業」交付団体の募集

令和8年度にお寄せいただいた募金を、令和9年度の地域福祉活動に役立てます

社会福祉の推進を目的とし、特定の対象に限定することなく、広く助けを必要としている方を支援する団体を募集します。

対象団体 寒河江市内で社会福祉事業を実施する団体（非営利団体）

助成対象区分
- 先駆的・モデル事業
- 生活支援事業
- その他地域福祉事業

※申請いただいた事業は審査委員会にて審議を行います。審査結果によっては、ご希望に添えない場合もございますのであらかじめご了承ください。

詳細および応募方法につきましては、寒河江市社会福祉協議会のホームページをご確認ください。

締め切り 令和８年11月30日（月）まで

問い合わせ 山形県共同募金会寒河江市共同募金委員会
TEL：0237-83-3220



Ｒ８年度助成団体　寒河江市町会長連合会
（寒河江市町会長連合会報発行事業）

地域の居場所「ふれあいいきいきサロン」を始めませんか？

高齢者や障がいのある方が身近な場所で集い、楽しく交流・健康づくりを行う「ふれあいいきいきサロン」の新規実施団体を募集しています。

●対象となる団体
徒歩で通える場所で活動できること
参加・運営メンバーが10名以上いること
仲間づくりや健康保持･介護予防を目的とすること

●助成内容
会場費、茶菓・飲料代、材料費、講師謝礼などの経費の一部を補助
補助金額：年間上限 ５万円～８万円（※申請状況や事業予算等の査定により、上限に満たない場合があります）

●締め切り 令和８年12月18日（金）まで
（※令和９年度から実施の場合）

立ち上げのご相談やお手続きについては、お気軽に社会福祉協議会までお問い合わせください。

【お問い合わせ】
市民福祉課　地域福祉係
TEL：0237-83-3220



社会福祉法人 寒河江市社会福祉協議会 | ☎83-3220・FAX 83-3221
〒991-0021 寒河江市中央二丁目２番１号　ハートフルセンター２F
社協HP・Instagramもご覧ください
この広報誌は赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

■編集発行 社会福祉法人寒河江市社会福祉協議会 2026.11.05発行 vol.129